

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年2月2日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473300741		
法人名	医療法人 北原会		
事業所名	グループホーム大野		
所在地	広島県廿日市市大野67番地1 (電話) 0829-56-3333		
自己評価作成日	令和5年1月6日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3473300741-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年1月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

- 自然豊かで、静かな環境にあり、四季折々の風景を楽しむことができます。
- 当ホームの理念にある「家庭的な雰囲気作り」「常に笑顔で目配り傾聴」「地域に愛され信頼されるホームづくり」をキーワードとして、穏やかに暮らせるように取り組んでいます。
- 季節や行事に合わせた手作りの食事を提供しています。
- 個々の思いに寄り添い、趣味嗜好を取り入れ、豊かな生活が送れるように取り組んでいます。
- 経営母体が病院なので、訪問診療や緊急時の対応が速やかに出来るように連携を取っています
- 季節ごとの行事に取り組んでいます。コロナ禍が収束し、外出が可能になれば計画を立て、楽しく快適な暮らしを提供出来るように支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理念を念頭に職員は意味合いを共有し、利用者が穏やかに過ごせるよう生活歴を把握しながら取り組んでいる。運営母体が医療機関のため日頃の健康管理や緊急時にも、院長を中心に速やかに対応しており、介護職との協働で安心・安全な支援を確保している。災害対策ではハザードマップを参考に、置かれている位置や危険性を把握し、法人と共にルールに沿って訓練を行っている。コロナ禍で面会や外出が困難な現状で、職員は話し合いを重ね、行事食を始めレクリエーションなど、利用者が満ち足りた生活が出来るよう工夫を重ね、サービスに取り組んでいる。また職員は現在は主にリモートでの研修の割合が多いが、スキルアップを行いより良い支援に繋げるよう努力している。

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を、玄関と廊下に掲げ、毎朝、始業前に唱和すると共に、全職員が名札の中に理念を携帯し意識づけ、実践を心がけている。今後も、理念を元に年間目標を作成し、実践に繋げる努力をしていく。	職員は理念に沿い利用者と共に生活し、個々にあった暮らしの支援を心掛けている。研修や日々のケアに職員同士、切磋琢磨し取り組むことを目標に掲げ、会議ではケース検討を行い、2ユニットが情報を共有し適宜見直し等行うことで、質の高い暮らしの向上を目指し支援に繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で事業所自体も家族や地域との交流が難しい状況が続いているが、昨年11月に協力医療機関主催の文化祭が開催でき、少しでも病院や当施設の様子を知ってもらおう良い機会となった。	コロナ禍で地域交流が殆ど出来ないが、運営母体の医療機関が主催した文化祭に、利用者の作品を展示し地域の住民にも見学して貰う等、間接的ではあるが途切れない付き合いがある。職員は地域との交流を大切に、話し合いを行いながら支援に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員が日頃の業務や研修などで培ってきた知識や技術を地域に還元したい思はあるが、コロナ禍で思うように出来ていない。入居相談や職員の知人、近所の住民からの相談には、わかりやすく丁寧な対応をするように心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で家族や市の職員の出席が難しい時期もあったが、それぞれの立場で積極的な意見交換を行っている。その意見をもとに協議を行い、サービス向上に向けて取り組みをしている。	会議を定期的に行い、地域包括支援センターや関係者が参加し意見交換を行っている。取り組み内容は報告だけでなく、面会に関してや利用者の体調面のアドバイス等、さまざまな意見交換を行いながらサービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議は関係者が行っているが、地域住民の参加がない。二番目に会議前に意見を聞き取り、話し合いに反映させて欲しい。また現状ではこの討議内容が家族に届けられていない為、今後の改善課題の情報共有のためにも、この会議録の送付についての対応を期待する。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	コロナ禍で市主催のケア会議など中止の時期もあったが、開催時は出席できるようにして、意見交換、情報収集の場として活用している。それ以外にも電話などで相談や情報交換をして時には助言をもらい、サービスの向上に努めている。	市町が主催の会議を定期的に行い、事業所は関係者が出来る限り参加している。日頃は制度に関する疑問や、サービスの取り組み方法、入退所の確認や市からも入所相談がある等、多岐に渡り質問や相談を行い、アドバイスを貰いながら、担当者とは常に良い協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	何が身体拘束になるのか、なぜ身体拘束がいけないのか、研修や意見交換の場で全職員が理解を深め、入居者の人権を守るという視点で法人全体で取り組んでいる。施設の構造上施錠はしているが、状況に応じて柔軟に対応している。拘束が必要な場合には身体拘束適正化委員会にて協議している。	身体拘束とその影響は、定期的開催している会議に参加し、その後事業所で伝達を行い職員は理解している。支援の在り方も不適切ケアをはじめ、事例が発生すれば多職種の意見を聞き、話し合いを重ね、拘束の3要件にも気配りしながら支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	何が虐待になるのか、基本に立ち返り、日々の業務にあたると共に、研修や定期的開催している権利擁護・虐待防止委員会で、高齢者虐待防止法に基づき意見交換をしている。会議で出た助言をもとに、誰もが虐待に気づく視点を持つことが出来るように努めている。	/	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	引き続き、オンライン研修や法人研修を通じて誰もが権利擁護や成年後見制度の理解と活用出来るようにしていく。今後、当施設でも後見人制度を必要とする事例も増えていくものと思われるため、相談支援を充実していきたい。	/	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居者家族には、分かり易く書類の説明をし、不安や疑問点が無いかながら契約の締結を行っている。また、規約の改定等があれば、書面を作成し十分な説明をし、理解・納得してもらう様に心がけている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の意見や要望があれば、話しやすい環境の場を設定し、傾聴をして全職員間で対応を検討している。家族との面会は、コロナ禍の影響で難しくなっているため、電話や手紙を通じて本人の思いを伝え、家族の要望を聞きながら迅速に対応をしている。コロナ禍で面会が出来にくい状況にあるが、玄関に目安箱を設置して匿名でも意見が出せるようにしている。	面会時に家族から意見を求めている。家族からの意見や要望は、コロナ禍で直接面会が出来ない為、事業所は予約を取り10分位ではあるが、ガラスドア越しの面会を実施している。	

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の申し送り時や、業務の時間の合間に、自由に意見交換をする機会があり、個別対応もしている。月に1回のリーダー会議では、当日の職員も交え意見交換をしている。管理者は、提案された意見をもとに、今後の運営に反映させるよう配慮している。	事業所は職員からの意見を会議の場のみで無く、個人面談や様々な場面で聞く機会を持ち、働きやすい環境を作る為の体制はある。職員からの要望があれば会議で話し合い、必要に応じてリーダー会議に図り、シフトの改善やケアの工夫を見直す等、意見の反映に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人ひとり、勤務体制や契約条件が異なるため、各職員に応じた職場環境を整え、労働時間・昼休憩など順守している。状況に応じて業務の見直しもして、各自が向上心を持てるよう個々にあった研修も勧めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には必ず先輩職員の指導をつけ、職員各人の力量を把握し、誰が関わっても質の高い介護が出来るように日々、努力を続けている。また、研修への参加や資格取得希望者には勤務を柔軟に対応し、研修で得た知識を還元出来るように研修報告書の作成や施設内で伝達研修をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍の影響で、外部研修や地域ケア会議が中止になることもあって、実際に会った交流が難しくなっている。今後も電話やオンライン研修を活用しながら情報交換をし、サービスの質の向上に取り組んで行く。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に、本人の情報を全職員が把握出来るように、家族や在宅時の介護支援専門員より対応について話し合い、入居時には本人の不安な思いや要望をしっかりと受け止め、不安感が少しでも解消されるような対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居相談時から困っている事や不安に思っている事、要望などを傾聴し、労いの言葉を交えながら、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。入居後も連絡を密にし、家族との信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	不安な気持ちで相談する家族に、色々なサービスの選択肢がある事も伝え、多職種とも連携して、本人・家族にとってより良いサービスとは何かを共に考え、必要なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として入居者を敬い、出来ないことに注目するのではなく、今、出来ていることを尊重し、寄り添い、見守りをしていき、関係性を深めていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居したことで、家族との関係性が薄れることが無いように、出来るだけ電話や手紙で連絡を取り、家族と共に本人の生活を支えている関係を築くように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍の影響で、家族はもとより、知人・友人とも交流が難しくなり、電話や手紙の交流が中心となっている。時には、友人との思い出話を傾聴し、楽しかった思い出を共有できるように努めている。	馴染みの場所に出掛ける事が困難な現状で、出来る限り繋がりを大切にしている。必要時に馴染みの美容師が訪問している。時には窓越しに見える景色を眺め、住み慣れた街を思い出しながら談話をしている。職員は途切れない関係の継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂兼談話室の席の配置を工夫し、時には職員が入居者の間に入り、会話を楽しめるように橋渡しをしている。入居者が孤立することが無いように、共に暮らしを楽しめる環境づくりを目指している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	事情があつて退去された家族に対しても、引き続き気軽に立ち寄れるように声掛けをしたり、相談にものっている。本人に面会する機会を作ったり、病院職員とも必要に応じて情報交換をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中で、本人の言葉を聞き出す工夫や、本人の表情や行動から意向をくみ取るようにしている。時には、家族に在宅での様子を聞いて、本人の思いが把握できるように柔軟な対応をしている。	普段の会話の中で家族から情報を得て、連携を取りながら、出来る限り思いが実現出来るよう取り組んでいる。職員は利用者一人ひとりの暮らし方や生活歴を確認し、検討しながら希望に応えられるよう支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、家族や在宅時の介護支援専門員からの情報をもとに、本人の生活歴を考慮して、今までの生活様式を変えないように工夫をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活歴をもとに本人の一日の過ごし方を観察し、全職員で情報を共有しながら、本人の持てる力が十分に発揮できる暮らしを築けるように、話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護支援専門員を中心に、本人・家族・関係者に聞き取りをした上で、担当者会議を開き、介護計画書を6ヶ月毎に更新している。モニタリングは3ヶ月毎に行っているが、状態に変化があった時は、新たに介護計画書を作成している。</p>	<p>モニタリングは6ヶ月に1回を3か月に1回と見直した結果、細部に渡り的確に判断が行い易くなり、職員の意識も向上し計画が進化している。又、状態の変化がある場合は、職員全員が情報を共有し評価、見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子は個別ケース記録に記載しその情報は職員間で共有すると共に、介護計画書作成の参考にしている。また、申し送りノートには医療情報や介護の変更点など随時記載し、リーダー会議で個別ケースの検討会も開催し、状況に合わせた柔軟な対応をしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>日々の生活では大まかに一日のスケジュールはあるが、希望により出来るだけ柔軟に対応している。医療ニーズに対しては母体の協力医療機関との協力体制が出来ているが、ボランティアを含め、地域資源・サービスの活用も視野に検討し実現に向けて努力をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>在宅生活で培った地域とのつながりを継続しながら豊かな生活を送って欲しい思いはあるが、コロナ禍で、面会や外出が制限され思うように支援が出来ていない。今後も協力医療機関との協働で地域との交流の機会を模索していきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時に、本人・家族に在宅でのかかりつけ医で継続するか、協力医療機関をかかりつけ医にするか意向の確認をしている。途中での変更も可能。夜間や緊急時でも適切な医療が受けられるように、協力医療機関が柔軟な対応をしている。</p>	<p>利用者全員が同じ法人内のかかりつけ医で、週3回訪問診療が有り1度に3人ずつ交互で診てもらっている。更には看護師、薬剤師、担当職員と連携を取り、有事の対応は法人代表の院長が、オンコールで素早い対応をしている。また必要に応じて他科受診も適切に行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々のケアの中での状態の変化や気づきはすぐに看護師につなげる関係性が出来ており、看護師は協力医療機関の医師に報告し早めの対策をとっている。休日・夜間など看護師が不在時も24時間、電話連絡が出来、必要に応じて出勤したり、協力医療機関の看護師が様子を見に来る体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、看護情報提供書や介護計画書など必要な情報を提供し、病院との連携を取っている。また、本人・家族の不安感が軽減されるように病院に出向き、本人の生活スタイルが大きく変化しないように、退院に向けての情報交換や相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、本人・家族・主治医と重度化した場合の対応について話し合っている。実際に重度化や急変時には、改めて意思確認を行い、今後の治療方針に、本人・家族の意思が尊重されるように協力医療機関と連携を取っている。	運営法人の方針で看取りは行わない事を、利用開始時に家族に説明し了承を得ている。重度化した場合は家族の希望を確認し、かかりつけ医の指示のもと、主には法人内の医療機関を紹介している。職員は予防に重点を置き方針に従った支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な応急処置や初期対応の訓練は行っていないが、急変時や事故発生時は看護師、協力医療機関の医師と24時間、連絡がつき具体的な指示がある。また、協力医療機関からの看護師の24時間の応援体制も確立している。急変時や事故対応した時は、記録に残し、全職員が情報共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、協力医療機関との合同避難訓練を実施しており、マニュアルを掲示すると共に、全職員が入居者の安全確保について認識を深めている。災害時にも協力医療機関の応援体制や、食料品や飲料水の備蓄も出来ている。	災害訓練は定期的に利用者を含め行い、併設の法人医療機関は避難場所にもなっている。防災タイムラインである、いつ行動に移すかのタイミングは法人の指示のもとにまずは垂直移動を行っている。ハザードマップで危険性は把握しており、素早い対応が取れるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の入居者の人格を尊重し、自尊心を傷つけないように言葉使いや対応に配慮している。特に、排泄介助や入浴介助などは、入居者のプライバシーに関することである為、全職員が入居者の情報を共有し、プライバシーを損ねない対応をしている。	事業所内でプライバシー保護の研修を行っている。職員は普段より接遇のチェックを行い、例えば大きな声でトイレ確認をしないよう職員同士が注意しあい、日頃から人格を損なわない対応を心掛けている。管理者は日頃の支援で職員が適正な対応や判断が行えるよう指導に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を打ち明けられるように、時には個別に居室で傾聴している。言葉では十分に意思疎通が難しい時は、本人の表情や日頃と違う言動や何気ない会話の中で、本人の思いをくみ取るような対応を心掛けている。状況に応じて、家族の協力を依頼することもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れは決まっているが、日々の状況に応じて、本人の意向に沿った対応をしている。特に、余暇の過ごし方は個々の趣味・嗜好を取り入れて提供するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみやおしゃれを気にされる入居者には、本人の希望に沿った対応をし、必要な化粧品や服などは、家族に連絡して依頼している。また、訪問理容の利用時には、一緒に髪型についても話をすることがある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	施設内で調理をしているが、事前に食材のアレルギーの有無の確認と嗜好調査や日頃の食事摂取状況により献立の変更をしており、量や形態は入居者のその日の体調に合わせて工夫をしている。調理や盛り付けは職員が行っているが、簡単な片付けやテーブル拭きなど手伝ってもらうことはある。	食事は三食、職員が交代で作っている。誕生日や行事等の折には、ケーキにその時期に合った折り紙を添え、細やかな心配りがある。事業所は四季折々の食事を大切にしながら、食事環境もテーブルの配置等に気配りを行い、楽しく飽きない食事を支援している。	

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎日、食事・水分補給は記録し、必要に応じて協力医療機関の医師や管理栄養士に助言をもらい、間食や栄養補助食品を活用することもある。また、毎月の体重測定や定期的な検査で、栄養状態の把握に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔ケアは、起床時と毎食後に職員の誘導により行っている。自力で行えない入居者には、声掛け・介助を行っている。毎日夕食後に義歯を預かり消毒している。必要に応じて、歯科受診を勧めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し、特に食事の前後は、声掛けや誘導を行っている。身体状況によりベッドサイドにポータブルトイレを設置し、出来るだけトイレでの自然な排泄ができるように支援している。</p>	<p>職員は利用者の排泄パターンを共有し誘導している。利用者の多くが高齢で、リハビリパンツや布パンツにパット使用で、トイレを利用している。便秘の予防としても、水分管理や排便の予防対策として、食事等にも気配りしながら残存機能が保てるよう支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便記録表を使用し、必要に応じて看護師に相談している。看護師は腹部の聴診や水分摂取量などを確認し、協力医療期間の医師に報告、指示や助言をもらっている。ヨーグルトなどの食材利用や個々に応じた水分補給を促し、軽体操などを勧めたり、便秘予防に取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的に入浴する日は決まっているが，その日の心身状態に合わせて，入浴日や時間の変更を柔軟に行っている。体調不良などで入浴できないときは，清拭・足浴などで対応している。</p>	<p>入浴は週2回午後から、利用者の習慣や状態に合わせて行い、基本的には入浴剤は使用していない。入浴後は乾燥予防に薬用ローションを使い、保湿にも心掛けている。その他の入浴環境も冬場の室温管理に気配りを行いながら、その人に合った入浴を楽しめるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの就寝時間、起床時間に合わせ声掛け誘導をしている。快適に眠ることが出来るように、空調・照明にも配慮している。午睡も勧めているが個々の状態に合わせた時間を見計らっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別の薬袋に用法・用量・目的を記載して保管すると共に服薬状況をケース記録に記載している。追加の処方があった時などは、申し送りノートを活用して、理由や用法、副作用などの注意点を記入して全職員が情報共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの趣味や楽しみにしていることを把握し、ぬり絵、パズル、編み物、歌などに取り組んでもらうと同時に季節の行事を取り入れて変化のある生活支援を心がけている。また、広告を使ったゴミ箱作りや作品作りの準備などできる範囲で役割を持ってもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の影響で、外出が難しい状況が続いている。自然豊かな環境である為、窓から山々の緑を眺めたり、桜が咲く時期に窓越しに花見が出来たりもする。コロナの感染状況が落ち着いたら、優先的に外出の機会を持ちたい。	現在は外出は出来ないが、職員は外の空気を感じて貰うため、窓を少し開け外気を取り入れたり、窓越しではあるが景色を眺めたり、時には中庭を職員と散歩をしている。今後はタイミングを図ってドライブなど、外気に触れる機会をつくるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の状況や希望に則して、自己管理の支援をしているが、管理が難しい入居者が増えてきている現状がある。購入希望などは家族の協力を得て買い物支援をしている。外出の機会には自身でお金を使えるようにしたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>コロナ禍で、外出や面会が出来ない分、手紙や電話での交流を大切にしている。電話の取次ぎや手紙の送付支援をするともに、家族へは施設内の様子や行事の写真などを添えた手紙を送付している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間には、転倒防止と場所を分かりやすくする張り紙などを工夫したり、季節感のある壁画や作品を展示している。庭には、四季折々の花が楽しめたり、明るく心地よい環境作りに努めている。また、空調設備・照明・カーテンで室温・明るさや光の調整を行っている。</p>	<p>日中はユニットの一つは歌を歌い楽しんでいる。リビングで仲の良い利用者がおしゃべりを楽しむこともある。また廊下を散歩したり自由に過ごし、室内は清潔で衛生管理も行っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食堂兼談話室では、テーブル毎に会話を楽しんだり、気の合った入居者同士で話ができる場所を確保している。また、居室内で過ごす時間が多い入居者には、適宜、見守り・声掛けをしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には、本人の希望や家族からの情報をもとに馴染の家具を持ち込んだり、家族写真を飾ったりして、本人がくつろげる工夫をしている。</p>	<p>室内は備え付けのベッド、エアコン、病院仕様の床頭台があり、出来る限り部屋を広く使うため小さめの家具を持参している。ドアの中央にある小さめなガラスには、目隠しを兼ねて絵などを貼り、入口横にはリボン型の名札があり、迷わないよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下・トイレ・食堂兼談話室に取り付けている手すりにより、安全で自立した移動が出来るように工夫している。トイレや居室には、表札や案内板を付け、場所を明確にしている。</p>		

V アウトカム項目(I ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を、玄関と廊下に掲げ、毎朝、始業前に唱和すると共に、全職員が名札の中に理念を携帯し意識づけ、実践を心がけている。今後も、理念を元に年間目標を作成し、実践に繋げる努力をしていく。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	コロナ禍で事業所自体も家族や地域との交流が難しい状況が続いているが、昨年11月に協力医療機関主催の文化祭が開催でき、少しでも病院や当施設の様子を知ってもらおう良い機会となった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員が日頃の業務や研修などで培ってきた知識や技術を地域に還元したい思はあるが、コロナ禍で思うように出来ていない。入居相談や職員の知人、近所の住民からの相談には、わかりやすく丁寧な対応をするように心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で家族や市の職員の出席が難しい時期もあったが、それぞれの立場で積極的な意見交換を行っている。その意見をもとに協議を行い、サービス向上に向けて取り組みをしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	コロナ禍で市主催のケア会議など中止の時期もあったが、開催時は出席できるようにして、意見交換、情報収集の場として活用している。それ以外にも電話などで相談や情報交換をして時には助言をもらい、サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	何が身体拘束になるのか、なぜ身体拘束がいけないのか、研修や意見交換の場で全職員が理解を深め、入居者の人権を守るという視点で法人全体で取り組んでいる。施設の構造上施錠はしているが、状況に応じて柔軟に対応している。拘束が必要な場合には身体拘束適正化委員会にて協議している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	何が虐待になるのか、基本に立ち返り、日々の業務にあたりと共に、研修や定期的開催している権利擁護・虐待防止委員会で、高齢者虐待防止法に基づき意見交換をしている。会議で出た助言をもとに、誰もが虐待に気づく視点を持つことが出来るように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	引き続き、オンライン研修や法人研修を通じて誰もが権利擁護や成年後見制度の理解と活用が出来るようにしていく。今後、当施設でも後見人制度を必要とする事例も増えていくものと思われるため、相談支援を充実していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居者家族には、分かり易く書類の説明をし、不安や疑問点が無いか尋ねながら契約の締結を行っている。また、規約の改定等があれば、書面を作成し十分な説明をし、理解・納得してもらう様に心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の意見や要望があれば、話しやすい環境の場を設定し、傾聴をして全職員間で対応を検討している。家族との面会は、コロナ禍の影響で難しくなっているため、電話や手紙を通じて本人の思いを伝え、家族の要望を聞きながら迅速に対応をしている。コロナ過で面会が出来にくい状況にあるが、玄関に目安箱を設置して匿名でも意見が出せるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の申し送り時や、業務の時間の合間に、自由に意見交換をする機会があり、個別対応もしている。月に1回のリーダー会議では、当日の職員も交え意見交換をしている。管理者は、提案された意見をもとに、今後の運営に反映させるよう配慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人ひとり、勤務体制や契約条件が異なるため、各職員に応じた職場環境を整え、労働時間・昼休憩など順守している。状況に応じて業務の見直しもして、各自が向上心を持てるよう個々にあった研修も勧めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には必ず先輩職員の指導をつけ、職員各人の力量を把握し、誰が関わっても質の高い介護が出来るように日々、努力を続けている。また、研修への参加や資格取得希望者には勤務を柔軟に対応し、研修で得た知識を還元出来るように研修報告書の作成や施設内で伝達研修をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍の影響で、外部研修や地域ケア会議が中止になることもあって、実際に会った交流が難しくなっている。今後も電話やオンライン研修を活用しながら情報交換をし、サービスの質の向上に取り組んで行く。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に、本人の情報を全職員が把握出来るように、家族や在宅時の介護支援専門員より対応について話し合い、入居時には本人の不安な思いや要望をしっかりと受け止め、不安感が少しでも解消されるような対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居相談時から困っている事や不安に思っている事、要望などを傾聴し、労いの言葉を交えながら、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。入居後も連絡を密にし、家族との信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	不安な気持ちで相談する家族に、色々なサービスの選択肢がある事も伝え、多職種とも連携して、本人・家族にとってより良いサービスとは何かを共に考え、必要なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として入居者を敬い、出来ないことに注目するのではなく、今、出来ていることを尊重し、寄り添い、見守りをしていき、関係性を深めていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居したことで、家族との関係性が薄れることが無いように、出来るだけ電話や手紙で連絡を取り、家族と共に本人の生活を支えている関係を築くように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍の影響で、家族はもとより、知人・友人とも交流が難しくなり、電話や手紙の交流が中心となっている。時には、友人との思い出話を傾聴し、楽しかった思い出を共有できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂兼談話室の席の配置を工夫し、時には職員が入居者の間に入り、会話を楽めめるように橋渡しをしている。入居者が孤立することが無いように、共に暮らしを楽しめる環境づくりを目指している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	事情があつて退去された家族に対しても、引き続き気軽に立ち寄れるように声掛けをしたり、相談にもものっている。本人に面会する機会を作ったり、病院職員とも必要に応じて情報交換をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中で、本人の言葉を聞き出す工夫や、本人の表情や行動から意向をくみ取るようにしている。時には、家族に在宅での様子を聞いて、本人の思いが把握できるように柔軟な対応をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、家族や在宅時の介護支援専門員からの情報をもとに、本人の生活歴を考慮して、今までの生活様式を変えないように工夫をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活歴をもとに本人の一日の過ごし方を観察し、全職員で情報を共有しながら、本人の持てる力が十分に発揮できる暮らしを築けるように、話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護支援専門員を中心に、本人・家族・関係者に聞き取りをした上で、担当者会議を開き、介護計画書を6ヶ月毎に更新している。モニタリングは3ヶ月毎に行っているが、状態に変化があった時は、新たに介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は個別ケース記録に記載しその情報は職員間で共有すると共に、介護計画書作成の参考にしている。また、申し送りノートには医療情報や介護の変更点など随時記載し、リーダー会議で個別ケースの検討会も開催し、状況に合わせた柔軟な対応をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々の生活では大まかに一日のスケジュールはあるが、希望により出来るだけ柔軟に対応している。医療ニーズに対しては母体の協力医療機関との協力体制が出来ているが、ボランティアを含め、地域資源・サービスの活用も視野に検討し実現に向けて努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	在宅生活で培った地域とのつながりを継続しながら豊かな生活を送って欲しい思いはあるが、コロナ禍で、面会や外出が制限され思うように支援が出来ていない。今後も協力医療機関との協働で地域との交流の機会を模索していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に、本人・家族に在宅でのかかりつけ医で継続するか、協力医療機関をかかりつけ医にするか意向の確認をしている。途中での変更も可能。夜間や緊急時でも適切な医療が受けれるように、協力医療機関が柔軟な対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々のケアの中での状態の変化や気づきはすぐに看護師につなげる関係性が出来ており、看護師は協力医療機関の医師に報告し早めの対策をとっている。休日・夜間など看護師が不在時も24時間、電話連絡が出来、必要に応じて出勤したり、協力医療機関の看護師が様子を見に来る体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、看護情報提供書や介護計画書など必要な情報を提供し、病院との連携を取っている。また、本人・家族の不安感が軽減されるように病院に出向き、本人の生活スタイルが大きく変化しないように、退院に向けての情報交換や相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、本人・家族・主治医と重度化した場合の対応について話し合っている。実際に重度化や急変時には、改めて意思確認を行い、今後の治療方針に、本人・家族の意思が尊重されるように協力医療機関と連携を取っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な応急処置や初期対応の訓練は行っていないが、急変時や事故発生時は看護師、協力医療機関の医師と24時間、連絡がつき具体的な指示がある。また、協力医療機関からの看護師の24時間の応援体制も確立している。急変時や事故対応した時は、記録に残し、全職員が情報共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、協力医療機関との合同避難訓練を実施しており、マニュアルを掲示すると共に、全職員が入居者の安全確保について認識を深めている。災害時にも協力医療機関の応援体制や、食料品や飲料水の備蓄も出来ている。		

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の入居者の人格を尊重し、自尊心を傷つけないように言葉使いや対応に配慮している。特に、排泄介助や入浴介助などは、入居者のプライバシーに関することである為、全職員が入居者の情報を共有し、プライバシーを損ねない対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を打ち明けられるように、時には個別に居室で傾聴している。言葉では十分に意思疎通が難しい時は、本人の表情や日頃と違う言動や何気ない会話の中で、本人の思いをくみ取るような対応を心掛けている。状況に応じて、家族の協力を依頼することもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れは決まっているが、日々の状況に応じて、本人の意向に沿った対応をしている。特に、余暇の過ごし方は個々の趣味・嗜好を取り入れて提供するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみやおしゃれを気にされる入居者には、本人の希望に沿った対応をし、必要な化粧品や服などは、家族に連絡して依頼している。また、訪問理容の利用時には、一緒に髪型についても話をすることがある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	施設内で調理をしているが、事前に食材のアレルギーの有無の確認と嗜好調査や日頃の食事摂取状況により献立の変更をしており、量や形態は入居者のその日の体調に合わせて工夫をしている。調理や盛り付けは職員が行っているが、簡単な片付けやテーブル拭きなど手伝ってもらうことはある。		

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	毎日、食事・水分補給は記録し、必要に 応じて協力医療機関の医師や管理栄養士 に助言をもらい、間食や栄養補助食品を 活用することもある。また、毎月の体重 測定や定期的な検査で、栄養状態の把握 に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは、起床時と毎食後に職員の誘 導により行っている。自力で行えない入 居者には、声掛け・介助を行っている。 毎日夕食後に義歯を預かり消毒してい る。必要に応じて、歯科受診を勧めてい る。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、特に食事 の前後は、声掛けや誘導を行っている。 身体状況によりベッドサイドにポータブ ルトイレを設置し、出来るだけトイレで の自然な排泄ができるように支援してい る。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便記録表を使用し、必要に応じて看護 師に相談している。看護師は腹部の聴診 や水分摂取量などを確認し、協力医療期 間の医師に報告、指示や助言をもらって いる。ヨーグルトなどの食材利用や個々 に応じた水分補給を促し、軽体操などを 勧めたり、便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	基本的に入浴する日は決まっているが、 その日の心身状態に合わせ、入浴日や時 間の変更を柔軟に行っている。体調不良 などで入浴できないときは、清拭・足浴 などで対応している。		

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの就寝時間、起床時間に合わせ声掛け誘導をしている。快適に眠ることが出来るように、空調・照明にも配慮している。午睡も勧めているが個々の状態に合わせた時間を見計らっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別の薬袋に用法・用量・目的を記載して保管すると共に服薬状況をケース記録に記載している。追加の処方があった時などは、申し送りノートを活用して、理由や用法、副作用などの注意点を記入して全職員が情報共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの趣味や楽しみにしていることを把握し、ぬり絵、パズル、編み物、歌などに取り組んでもらうと同時に季節の行事を取り入れて変化のある生活支援を心がけている。また、広告を使ったゴミ箱作りや作品作りの準備などできる範囲で役割を持ってもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の影響で、外出が難しい状況が続いている。自然豊かな環境である為、窓から山々の緑を眺めたり、桜が咲く時期に窓越しに花見が出来たりもする。コロナの感染状況が落ち着いたら、優先的に外出の機会を持ちたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の状況や希望に則して、自己管理の支援をしているが、管理が難しい入居者が増えてきている現状がある。購入希望などは家族の協力を得て買い物支援をしている。外出の機会には自身でお金を使えるようにしたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	コロナ禍で、外出や面会が出来ない分、手紙や電話での交流を大切にしている。電話の取次ぎや手紙の送付支援をするとともに、家族へは施設内の様子や行事の写真などを添えた手紙を送付している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間には、転倒防止と場所を分かりやすくする張り紙などを工夫したり、季節感のある壁画や作品を展示している。庭には、四季折々の花が楽しめたり、明るく心地よい環境作りに努めている。また、空調設備・照明・カーテンで室温・明るさや光の調整を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂兼談話室では、テーブル毎に会話を楽しんだり、気の合った入居者同士で話ができる場所を確保している。また、居室内で過ごす時間が多い入居者には、適宜、見守り・声掛けをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、本人の希望や家族からの情報をもとに馴染の家具を持ち込んだり、家族写真を飾ったりして、本人がくつろげる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下・トイレ・食堂兼談話室に取り付けている手すりにより、安全で自立した移動が出来るように工夫している。トイレや居室には、表札や案内板を付け、場所を明確にしている。		

V アウトカム項目(IIユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム大野

作成日 令和5年3月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	グループホームの職員の指標となる理念の唱和が継続的に出来ていない。	①理念の唱和を継続する。	①1・2階とも日勤のリーダーが朝の申し送り時に声掛けをして、参加できる職員で理念の唱和をしていく。	R4年10月1日～ R5年3月31日 (6ヶ月毎に評価を行う)
			②理念の一つ「傾聴」について個々の入居者に合わせた対応を工夫する。	①申し送りやミーティングで情報を共有すると同時に、話しやすい雰囲気を作り、小さな声にもしっかり耳を傾けていく。	R4年10月1日～ R5年3月31日 (6ヶ月毎に評価を行う)
2	2	地域との連携、交流が充分に出来ていない。	①法人の病院と協議して地域との関わり・交流が出来る環境作りをしていく。	①地域ケア会議や外部の研修などを通じて情報交換を行う。また、併設の病院の文化祭を交流の場として活用する。	R4年10月1日～ R5年3月31日 (6ヶ月毎に評価を行う)
				②運営推進会議に地域住民が参加できる体制作りをしていく。	R4年10月1日～ R5年3月31日 (6ヶ月毎に評価を行う)
3	3	外出や家族との交流が、積極的に行われていない。	①年間行事計画をもとに外出や日々のレクリエーションの工夫をしていく。	①年間行事計画をもとに個別又は少人数で家族同伴の外出を試みる。	R4年10月1日～ R5年3月31日 (6ヶ月毎に評価を行う)
				②コロナ禍により、家族との交流の場を設けることが困難だったが、年に一回発行するお便りの中に、入居者の様子を満載し、情報発信する。	R4年10月1日～ R5年3月31日 (6ヶ月毎に評価を行う)
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。